

2015/10/15

＜一橋大学ファイナンス研究センター＞
『保険 ERM と経営戦略 - アプローチとチャレンジ』

日時： 2015 年 11 月 16 日（月）
10:00 -17:30 フォーラム（昼食休憩 12：30-13：30）
17:40 -19:30 懇親会
参加費：フォーラム（無料：先着順）、懇親会（会費制：要事前予約）

＜フォーラムの目的＞

実際に保険 ERM に関わる経営あるいは専門家の方々により、保険 ERM アプローチの実践的な課題を、陥りやすい問題点等も含め、深ぼりした議論を共有する。これをとおして、わが国における保険 ERM に関する水準の向上や発展に寄与することを目的とする。このシンポジウムは、最前線の実務家、監督官庁および研究者にこの目的達成のための情報共有の場を提供する。

＜フォーラムの対象となる方＞

保険 ERM は、企業のビジネスモデルに基づき、その企業価値の向上のため、コーポレート・ファイナンスをベースに、保険数理、統合的なリスク管理の手法等の観点から、総合的かつダイナミックにアプローチされるものである。また保険 ERM 戦略を実施する枠組みの構築は、理念にもとづく確固たる監督の枠組みのもので行うことが望ましい。

ERM は戦略的として役立って初めて価値を生み出すものではあるが、だからといって、経営のトップが占有するものではない。保険 ERM の PDCA サイクルを定着させるためには、企業全体にリスク文化が浸透する必要がある。よって、保険会社の経営・経営企画、リスクマネジメント、資産運用、商品開発、営業企画・営業等に関わる様々な方々も保険 ERM に関する認識を共有することが大切であり、フォーラムの対象となる方々である。

保険 ERM という実務的なテーマであるが、監督官庁および研究者の貢献によってさらに洗練されることが期待される。またコンサルティング会社、格付会社、保険会社担当アナリスト、銀行、年金、資産運用会社、事業会社等の ERM 担当者の方々にも参加していただき、より業種をまたいだ ERM の議論についても意見を伺いたい。最後に、コーポレート・ファイナンス、リスクマネジメントを研究する学生・大学院生、大学研究者等にも、参加していただき、ERM をめぐる研究の発展に関心を寄せていただきたい。

＜共催＞一橋大学商学研究科

記

日 時： 平成 27 年 11 月 16 日（月）午前 10 時より午後 5 時 30 分まで
午後 5 時 40 分頃より懇親会を予定（会費制）
場 所： 一橋講堂 大ホール
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

＜開会の挨拶＞

10:00-10:10 商学研究科長 蜂谷豊彦教授

<主旨説明>

10:10-10:25 一橋大学大学院商学研究科教授 米山高生

<セッション I >

10:25-12:20 「保険経営においてERMがどのようになされているのか？」(司会:米山高生)

「第一生命グループにおけるERM」畑中秀夫氏(第一生命保険株式会社)

「東京海上グループの経営におけるERM」玉村勝彦氏(東京海上ホールディングス株式会社)

<討論者1> 茶野努氏(武蔵大学)

<討論者2> 吉村雅明氏(ミリマン)

<昼食休憩>

12:20-13:30

<基調講演>

13:30-14:15 「保険会社を取り巻く環境変化とERM」金融庁 検査局審議官 天谷知子氏

<セッションII>

14:15-15:45 「ERMがなぜ必要で、どのような価値があるのか？」(司会:中村恒)

「欧米の保険会社でのERMの進展」河野年洋氏(ソニーライフ・エイゴン生命保険株式会社)

「格付会社におけるERM評価」田中玲奈氏(スタンダード&プアーズ・レーティング・ジャパン株式会社)

<討論者> 森本祐司氏(キャピタスコンサルティング株式会社)

<セッションIII>

16:00-17:30

「パネルディスカッション:保険ビジネスモデルの進展と保険ERMのチャレンジ」(司会:米山高生)

- 主な論点:
1. グローバルな保険ビジネスモデルの展開とERM体制
 2. EVと時価総額、および経済価値と会計価値
 3. ストレステストとストレスシナリオ
 4. 経営陣を含めた人材育成

<パネリスト>

植村信保氏 (キャピタスコンサルティング株式会社)

島村浩太郎氏 (明治安田生命保険相互会社)

祖父江康宏氏 (有限責任監査法人トーマツ)

羽村友城氏 (スイス再保険会社 日本支店)

村木正雄氏 (ドイツ証券株式会社)

<モデレーター> 酒井重人氏 (グッゲンハイムパートナーズ株式会社)

<閉会の挨拶>

17:30 一橋大学ファイナンス研究センター長 小川英治教授